

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800315		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	下関市豊浦町大字黒井1803番地		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町受理日	平成25年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・月1回の勉強会の継続。
- ・外部研修への参加等で利用者様本位の支援ができる様に職員の意識向上に努めている。
- ・毎日の入浴実施で清潔の保持と共に状態の観察、心地良い時間が過ごせる様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員は、「安心していきいきと自由に」という事業所理念に沿った対応に心がけておられ、利用者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好などを大事にし、利用者のワンマンショー、方言カルタ取り、生け花、雑巾縫いなど、活躍できる場面をつくり、楽しみごとの支援に取り組んでおられます。重度化や終末期の対応に対する家族の思いの把握のため、看取りについてのアンケートを実施し、運営推進会議で家族とメンバーに看取りケアについて説明をされ、家族の安心とメンバーの理解を得る他、職員の看取りケア研修を継続的に実施し、職員も方針を共有して看取りケアに取り組まれています。地域の人々も参加される夜間想定避難訓練や事業所独自の昼夜想定避難訓練、火災報知機の使い方訓練、避難経路の確認訓練など、職員は利用者を確実に避難誘導できるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あじさいの理念は名札に掲示し、いつでも確認できる様にしている。 グループホームあじさいの理念は毎日朝礼で唱和し、共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時に唱和し、日々のケアの中で一人ひとりの思いを大切にし、利用者が自由に生き生きとその人らしく暮らせるよう、理念を職員間で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや文化祭、法要等地域の行事に積極的に参加している。 散歩時には出会った方に挨拶し、交流に努めている。	自治会に加入し、自治会の総会、神社の祭り、文化祭、蛍祭り、どんど焼き、春祭り、地蔵盆、お大師様、寺の春秋の法要等に参加して、地域の人と交流している。散歩時に近所の人と挨拶を交わしたり、季節の野菜や花、果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。事業所の避難訓練に、地域の人参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し人々と交流する事で認知症の理解に努めている。 地域の方の相談に応じている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価を記入してもらい、外部評価について考える機会を持っている。 意見を参考にして推進会議のあり方など改善に取り組んでいる。	職員会議で評価の意義を説明し、職員全員で自己評価に取り組み、評価を通して、日々のケアの振り返りや見直しをしている。運営推進会議の議事録の工夫をし、議事録を全家族に送付するなど、評価を活かして具体的改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事を一緒に行い直に利用者様の様子を見てもらい意見交換を行っている。 事例や実際に行っているサービスについて話し合い、家族の気持ちを聞きサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、事業所の運営状況、行事報告、研修報告、事故報告、外部評価の取り組み状況についての報告し、意見交換している。事業所での看取りケアについて説明し、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や推進会議、又、必要に応じて連絡を取りながら協力関係を築いている。	市担当課とは、電話や出向いて相談し助言を得たり、情報交換している。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、出向いたり電話等で困難事例についての相談や情報交換をするなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は全ての出入口を開錠している。 身体拘束については研修や実際の介護現場で指導を行い、拘束ゼロを実施している。	マニュアルに基づいて日々のケアの中で話し合い、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠せず、外出を察知した場合には、職員が一緒について行く他、声かけの工夫もしている。スピーチロックについては、管理者、主任が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を行い、職員の意識向上に努めている。 虐待が見過ごされる事がない様職員同士注意を払い、虐待防止の徹底を図っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会を持っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明、話し合いの機会を設けている。 その後も必要に応じて説明を行い、理解、納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情意見箱を設置している。 外部機関を明示し、苦情処理手続きも明確にしている。 電話や面会時、意見を聞く様に努めている。	第三者委員、苦情相談受付体制、苦情処理手続きを定め周知し、契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議時、面会時、電話、手紙などで意見や要望を聞く他、遠方の家族に「たより」を送り、要望を聞いている。看取りについての家族の意見からアンケートを実施し、家族、職員の方針の共有を図るなど、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の役職会議・職員会議等で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。日常的にも職員の意見を聞いている。	月1回の役職会議、職員会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、代表者、管理者は日常の業務の中でも意見や要望を聞いている。研修内容についてや行事での外食、浴槽の安全面についての提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の業務終了後の報告で個々の勤務状況を把握している。 向上心を持って働けるよう、研修への参加や資格取得への奨励に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、社内外の研修への参加、月1回の勉強会を計画的に行い、意識や技術向上に努めている。	外部研修は情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は、職員が共有できるよう復命報告し、資料をコピーして配布する他、閲覧できるようにしている。法人研修は、年2回全職員が参加して実施している。内部研修は年間計画を作成し、緊急時の対応等テーマを決めて月1回実施している。新人職員は、法人研修で学び、介護技術や知識について先輩職員が指導して働きながら学べるように支援している。資格取得の支援の他、山口県宅老所・グループホーム協会等の勉強会に職員が参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・GH連絡協議会や複数事業所連携就職支援事業の勉強会等に参加し、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えに傾聴し、家族と共に話し合い、結果を全職員で共有する。 全員が同じ対応をする事で安心感と信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族の訴えを傾聴する機会を設けている。 面会時等で要望や意見を聞きながら情報提供し、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望や意見を聞く機会を設けている。 本人の様子をよく観察して必要なサービスを提供し、対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来る事を手伝ってもらい、職員と一緒にいる事でコミュニケーションをとっている。 また、達成感を得られる様感謝の言葉をかけている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族でゆっくりと過ごしていただけ様配慮している。 月1回「あじさいだより」を発行し、日頃の様子を伝えている。 要望がある時は御家族と電話で話をしたり、外出したりする。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の自由、外出の支援を行い、本人と周囲との関係を大切にしている。	親戚や友人、知人の来訪、敬老会や文化祭への参加、馴染みの商店での買い物、年賀状や電話の支援などの他、家族の協力を得ての美容院の利用、郵便局へ行く、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や相性を把握し、職員が間に入り話題提供やレクリエーションを行い利用者様同士が円滑に関わりあえるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じられる体制をとっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向を聞き職員会議等で情報を共有し本人本位で暮らせるよう検討している。	入居時のアセスメントや情報提供書で生活歴等を把握する他、利用者に寄り添い、日ごろの関わりなかでの言動や状態を生活記録に記録し、申し送り時や職員会議で話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報提供書、本人・家族から得た情報で把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康管理表や生活記録等の記入とチェックを行い、朝礼や職員会議等で現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、サービス実施チェック表を記入、定期的なケース会議で本人・家族の意向を尊重し職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 状態に変化があった場合、必要に応じてケース会議を行い、現状に即した介護企画を作成している。	管理者、計画作成者を中心に、毎月1回カンファレンスを開催し、本人、家族、主治医、看護師等、関係者の意見を参考にして、介護計画を作成している。サービス実施チェック表で確認し、6ヶ月毎のモニタリングを実施し、見直しを行う他、要望や状態に変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡ノートへの記入、職員会議等で情報を共有するとともに介護計画の実施結果一覧表を毎日チェックし、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から希望や意向を聞き、会議等で情報を共有しその時々で必要な支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署による避難訓練の実施、自治会長やご近所の方への理解を求め、協力をお願いしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族の希望を聞いている。通院・受診の介助も必要に応じて行っている。緊急時の受診も必要に応じて行っている。	協力医療機関をかかりつけ医とする他、入居前からのかかりつけ医の受診は、家族の協力を得て支援している。受診結果を伝達し、情報を共有している。協力医療機関からは週1回以上の往診があり、緊急時の対応など、適切な受診が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での些細な変化も介護職と看護職で相談・情報交換し、適切な受診や看護が受けられる様にしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の付き添い、入院中の面会や洗濯物等の生活支援、家族や病院関係者との情報交換・相談を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に十分説明し理解を求めている。状態に変化があればその都度方針を話し合い、医師・家族・職員が方針を共有し支援している。 運営推進会議で「終末期の取り組み」について説明し意見を聞いている。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所ができる対応について家族に説明し、本人や家族の希望を聞いている。実際に重度化した場合には、家族、主治医、看護師等関係者で話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。看取りに関するアンケートを実施し、運営推進会議で報告すると共に、職員の看取りケアの勉強会を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	計画的に月1回勉強会を行っている。 年1回消防署に依頼し「救命講習」を受けている。 職員会議でも対策と予防について話し合っている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日の職員で再発防止について話し合い、朝礼時に報告し、職員会議で再度の確認と共有をして、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で誤嚥や骨折の対応について看護師より実践的な指導を受ける他、年1回は消防署の救急救命法とAEDの使用訓練の講習を受けているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の実践的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し年1回、地域の人達も参加して避難訓練を実施している。 毎月火災避難訓練を実施している。 勉強会で災害について学ぶ機会をもっている。	年1回、消防署の協力を得て、自治会長、近隣住民と一緒に夜間想定避難訓練や消火訓練を実施している。事業所独自で昼夜想定避難訓練、避難経路の確認、火災報知器の使い方の訓練を月1回する他、年1回、防災時の避難経路の確認訓練もしている。自治会長や近隣住民の名を連絡網に記載するなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自の性格を把握し、状態に応じた言葉かけや対応を行う様にしている。 職員同士の申し送り時には利用者様本人が聞いている事を配慮し、イニシャルを使用している。	人格の尊重とプライバシーの確保については、毎月の職員会議で話し合い、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報や守秘義務の取り扱いについても徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を選んでもらったり、入浴の時間等聞くようにしている。 行事のときには食べたい物や行きたい所等希望を聞いている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の状態やその日のコンディション・気分等を重視し、優先している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に散髪を持ち、身だしなみが整えられる様にしている。 衣服の着こなし方はその人らしさが尊重される様にしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳・箸配り・お茶入れ等、それぞれが出来ることを行ってもらっている。 職員も同じテーブルで一緒に食事をしてコミュニケーションを図っている。	法人よりの配食を利用し、利用者の好みを聞いて、差し入れの野菜を使って一品作ったり、誕生日には、事業所で調理をするなど工夫している。利用者は下ごしらえ、盛り付け、片付けなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルで一緒に食べながら和やかに食事が楽しめるように支援している。季節の行事食、弁当を持参しての花見、おやつづくり(ホットケーキ、桜餅、柏餅、おはぎなど)の他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量等健康管理表に記入し、把握出来る様にしている。 状態に応じた食事形態や水分を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人に応じた口腔防具を使用しケアしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記入し、排泄パターンを把握、各人に適した間隔でトイレへの誘導を行っている。 本人の状態に応じトイレの使用や排泄用品を準備、排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄表を活用し、排泄パターンや習慣を把握して、時間を見図りながらの声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会で便秘について勉強している。 水分摂取量を把握し、こまめに水分補給を行う。 個々に応じた運動、腹部マッサージ、ホットパックを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日実施、本人の希望を聞いて入浴を行っている。 状態に応じてシャワー浴・清拭・足浴等に対応している。	毎日、10時から12時までと13時30分から16時までの間に、一人ひとりの希望に添って、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。入浴したくない人には、声かけ、職員の交代、時間をずらすなどの工夫をしている。菖蒲、柚子、ザボンなどで季節の香を楽しむなど、入浴を楽しむことが出来る様に支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息をとってもらっている。 寝具の清潔、冬場の湯たんぽ使用等で安眠を心がけている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を作り、いつでも確認出来る様にしている。 薬の変更時には連絡ノートを用い、情報の共有、把握を行い、状態観察を注意して行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、家事手伝い、趣味活動等各人に応じて行っている。 天気の良い日は散歩に行き、気分転換を図っている。	利用者のワンマンショー、方言カルタ取り、干し柿づくり、法話、折り紙、切り絵、季節の行事(節分、節句、七夕、クリスマス会など)、ことわざ遊び、しり取り、ラジオ体操、リハビリ体操、じゃんけんゲーム、風船バレー、洗濯物干し、洗濯物たたみ、輪投げ、歌、ダーツゲーム、ぬり絵、生け花、雑巾縫い、野菜づくり、花づくり、新聞や雑誌を読む、テレビ観賞、掃除、下ごしらえ、盛り付け、片付けなど活躍できる場面をつくり、気分転換や楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中、鍵をかけず希望に応じて外出出来る様にしている。 行事で花見や祭り、初詣等外出する機会を作っている。 家族と定期的に外出される方もいるので安心して外出できる様支援している。	地域のどんど焼き、敬老会、お大師様、寺の春秋の法要、文化祭、ほたる祭り、神社の秋祭り、地藏盆、花見(桜、コスモス、菖蒲)、ミカン狩り、初詣、散歩、買い物、年2回の夕食等の外出支援の他、家族の協力を得ての美容院や郵便局の利用、外食など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し希望に応じて所持出来る様にしている。 スーパー等での買い物に付き添い、上手く買い物出来る様支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望で電話をかけたり、かかってきた電話を取り次いでいる。 手紙は本人から出す事はないが、相手から来た手紙は渡している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や仏間があり、家庭的で落ち着ける環境になっている。 食堂には季節に応じた飾り付けをし、毎日気持ちよく過ごせるよう清潔の保持に努めている。	民家を改修した事業所で仏壇の前で法話を聞いたり、窓から隣家の庭の橙や梅の木、水仙の花を眺めることができる。食堂には床暖房を設置し、温度、湿度、換気に配慮している。御飯の炊ける匂いの中で盛り付けをしたり、テレビの前のソファや食卓の椅子に座ってお喋りをするなど、りようしゃが思い思いに過ごすことができる場所がある他、浴室やトイレ、廊下も使いやすいように改造し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は自由だが定位置を決めている方も数名いる。 食事の時以外はソファ等自由に思い思いの席に座って過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの小物や写真等を置いている。 家族写真や本人の写真を毎月貼り替え日常生活が分かる様にしている。	タンス、テレビ、衣装ケース、収納棚、机、椅子、鏡台、家族の写真パネル、ぬいぐるみ等の使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング、トイレ、浴室に手すりを設置し安全に移動できる様にしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあじさい

作成日：平成 25年 6月 9日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変や事故発生時に備えて定期的に内部研修を行っているが、全職員が実践力を身につけるまでは至っていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付ける。	全職員が消防署による救命講習を受講する。看護師指導による応急手当や初期対応の研修を継続的に実施する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。